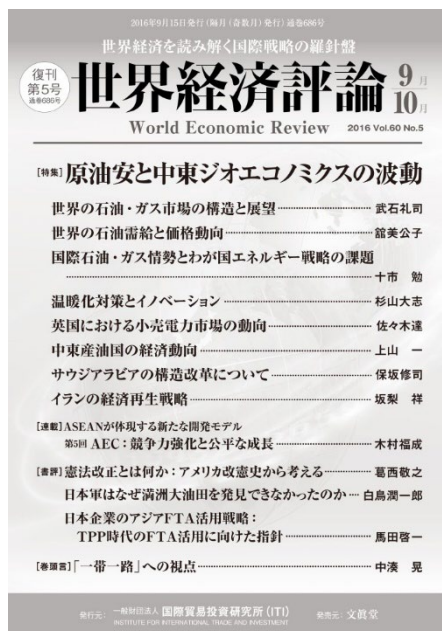


本論文は

世界経済評論 2016年9/10月号

(2016年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン販売

有名なイギリスの作曲家アルバート・ケテルビーの「ペルシャの市場」という曲を皆さんご存知だろうか。冒頭のメロディを聴くとテンポの良いリズムに「ああ、この曲ね！」とうなずく方も多いはず。ケテルビーの作品中で最も有名な曲であり、クラシック音楽の中でも多くの人に親しまれる。序奏部は、砂漠から近づいて来る商人のキャラバン隊が街の市場に到着するシーンだ。そして男声合唱による「バクシーシ、バクシーシ」という物乞いの声など市場の喧騒を表わした展開部を経て、曲は一転哀愁に満ちた印象的な旋律の高まりによってクライマックスを迎えるというもの。この曲が作られたのは、1920年、まだイランという名称はなかった。国名がイランと名づけられたのは1930年ごろ。その後イラン革命などを経て、長い苦境に陥る。

日本では、日本再興戦略、アベノミクス主導による我が国企業の海外展開の強化が進められているが、その一方で、リスクという言葉も同時に強く耳にするようになった。2014年以来、ISIS、エボラといったセキュリティリスクがクローズアップされ、更には油価の下落や中国経済の不況という経済インパクトもビジネスリスクとして大波化している。ジェットロもそうだがいろんな国際機関が類似のセミナーなどを開催し、注意喚起をしている。

世界がおおきなうねりにある中、影を潜めていたイランがついに頭角を現してきたことは唯一といって良いくらいの好材料。今年1月20日の経済制裁解除前後から世界中の閣僚、政治家、ビジネスマンがイランを行脚する。イランは石油もガスも潤沢に出るし、人口約8000万人の巨大市場、さらには自動車も年間110万台

の生産能力を有しており、ものづくりとしても大きな魅力がある。筆者もこんな魅力を昨今ではセミナーや取材などでくどいほど公言してきた。それまではリスクだの何だのと強く言ってきたわけであるが、どうもここだけムードが違う。筆者はこの一年ほどでイランには6回出張した。行くたびに変化を感じる。確かにイランは治安も良いのだ。見ることができなかったヤフーが見れるようになったり、大型ショッピングセンターが建設されていたり……。これからは観光ビジネスも大いに考えられよう。イランは、2015年時点で、日本と同じ19の世界遺産登録数を誇る。全て文化遺産で長い歴史を物語る建造物である。これらの文化遺産を生かし、

多くの外国人旅行客が訪れる国になるよう観光産業にも力を入れている。制裁解除により首都テヘランには欧州、中国などからビジネスマンが殺到し、ホテルは常に満杯状態にある。今後、地方への鉄道、道路といった交通インフラの整備とともにホテルなど観光産業への外国企業の進出が活発になることはほぼ間違いない。

イランは、核関連以外でも複数の経済制裁を課されてきた。これまでは厳しい経済運営に悩まされ、今もその影響は残されており、街中では「バクシーシ」と叫ぶ子供たちを必ず目にする。イランは、今が正念場である。国民は誰もが昔に戻りたいとは思わない。苦しかった時代を乗り越えてきた力がある。

第二章ペルシャの市場があるとすれば、もう物乞いの声を聞かないことを切に願う。日本がこの国に出来ることは何であろうか？

つねみ たかし 日本貿易振興機構 (JETRO) 海外調査部 中東アフリカ課長。

第二章 ～ペルシャの市場が あるとすれば……